

心の壁を超えて

丸山結実子

「じじみーん、みーんみーん」

夜遅くに蝉の音がする

東京の蝉たちは、電灯が明るすぎて昼間と勘違いしてしまっているかと
笑いがこみ上げる

と同時にごめんね、と思う

街は明るすぎる

お金があれば

使い捨ての飲み物を毎日買える

便利すぎる

そう感じる

だから私はなぜか苦しい

過剰だ、何もかも

すぐ近くにいる友達に話かけるが、無視される
いや、きこえていないみたいだ

よく見ると、耳に小さなイヤホン

大音量で音楽を聞いているのだろうか

大声で呼び

肩をポンポンと叩く

やっと気づいてもらえた

イヤホンしている人に

話しかけたくても話かけられない

その人の世界に入り込んだら申し訳ないかな

でも

なんか寂しい

私だつて

ひとりになりたいとき

耳をふさぐ

自分の醜さに押し潰されそうになるとき

耳をふさぐ

イヤホンをつければ、現実から遠く離れた場所にいける
そんな気がする

でもね、ちよつと落ち着くと

やっぱり生身の人間の声がききたくなる

電車に乗る

大半の人がスマホに没頭しているふうに見える

愉快におしゃべりする中年のふたり

ふと耳を傾ける

うん、面白い

つくづく、人生みんな大変なんだと思う

会話に入りたい

電車の中で赤の他人と喋りかけることは「普通」じゃないよね
ぐるりまわりを見回す

誰もふたりの話に関心はない

街を歩く

耳にはワイヤレスイヤホン

片手にはスマホ

暇な時間を潰せる

いや、潰すことができてしまう

何も考えなくても

自分のために自分の好きなものだけをきいたり、みたり

社会の中にはいろんな音がある

聞きたくない音

息苦しくなる音
嬉しくなる音
幸せになる音

でも耳をふさげば音はきこえない

誰かのこえがどんどんきこえなくなっている
そんな気がする

絞りだすような感情

ちいさな嘆き

震えているこえ

小さいこえ

大きなこえにかき消されているこえ

すぐちかくに

手に届きそうなところにあるのに

きこえない、きづけない

無力感に押しつぶされそうになつて

耳をふさぎたくなる気持ち

痛いほどに感じる

でも誰かと一緒に社会の中で生きる
共に生きる

いつもじゃなくてもいいから

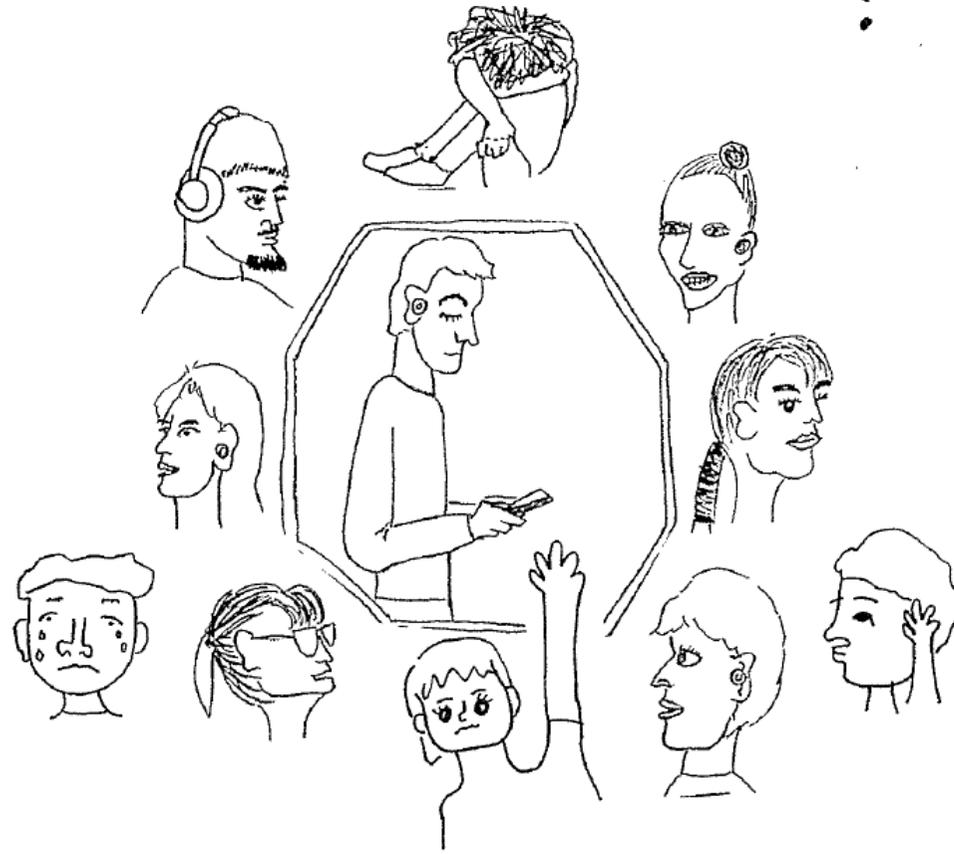
ときにはイヤホン外して歩きたい

自転車に乗りながらかぜの音を感じたい

そして周りをぐるーっと見渡したい

道端に佇む小さな草花たちに心をとめたい

Where is the LOVE ?



We May Live Together